

覽せり。

スリナガル出發以來、一部は馬車、大部は鐵道旅行を爲したる故、幾多の見聞詳細の觀察を爲すこと能はず。否多少の管見なきに非ざるも、此地方は既に多くの旅行者に頼つて、普く世に紹介せられ、復た予の偏見禿筆に待つを要せざるなり。

十一月二十二日、午後六時、總領事館員、稻垣中佐、三井物産會社員、及其他の在留邦人に見送られ、アラトン、アブカ號(四千噸)に乗船。同行に安藤敬三君(孟買に在りて日本紡績聯合會を代表)あり。

二十三日、午前六時、カルカタを解纜す。顧れば予の大陸旅行中、親炙せし山河、今尙ほ腦裡に髣髴し、無限の感慨胸中を往來して、俄に大陸を離るゝに忍びざるもの有り。舷に倚りて遙に西北を眺むれば、茫として唯白雲を見るのみ。寄語す西部支那一帶の山河、其國家と共に健在なれ。

二十九日、彼南に寄港。

十二月二日、新嘉坡着。當地駐在井上少佐の案内にて、普く各處を觀覽し、殊に馬來半島の末端、ジョホール王國を見舞ひしを幸とす。此地滞在三日。